






都市戦略部 成果報告

都市戦略部長 桑原 雄二

部局達成度

				
-	11	1	1	4

総括

令和4年度は、北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺整備の総仕上げとなる事業を着実に進めることができました。福井駅において観光客等をお出迎えする福井市観光交流センターは、令和5年1月に完成し、本格オープンに向けた準備を進めています。高架下トイレの改修や、新たなシステムに更新したシェアサイクル「ふくチャリ」の整備が完了し、福井駅前電車通り北地区A街区の市街地再開発事業についても、ホテル棟最上階の28階まで工事が進捗しています。

さらに、並行在来線準備会社の「株式会社ハピラインふくい」への移行や、県、市、商工会議所で組織する県都にぎわい創生協議会による「県都グランドデザイン」の策定など、新幹線開業後を見据えたまちづくりにも継続して取り組んでいるところです。

また、平成27年に着手した志比口開発線が、8月に供用開始し、福井駅へのアクセス向上や渋滞緩和など顕著な効果が見られました。

公共交通では、原油価格高騰や新型コロナウイルス感染症の影響を受けたえちぜん鉄道や福井鉄道、路線バスの支援を行い、MaaS協議会の設立など、第2次福井市都市交通戦略に基いた事業を進めました。

さらに、第11次福井市交通安全計画に基づき、特に高い割合を占めている高齢者の事故の防止について、継続的な交通安全対策を進めました。

最後に、新たに設置したDX推進室のもと、福井市DX推進計画を推進し、デジタル化による市民生活の向上のため、人材育成や新技術の活用を積極的に展開しました。

来年度も、令和6年春の北陸新幹線の開業効果を最大限に受け止めるため、まちづくりや公共交通の取組を着実に進め、高齢化やポストコロナ社会を見据えた安全で安心なまちづくりや、DXの推進に取り組みます。

組織目標ごとの達成状況

I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺での取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます

福井駅周辺の取組として、福井駅東口の観光交流センターの工事完成や指定管理者の選定を行い、令和5年10月の本格オープンに向けて、着実に準備を進めることができました。

市街地再開発事業について、福井駅前電車通り北地区A街区では、急激な物価高騰等の影響がありましたが、国の支援制度を活用するなど、令和6年春の新幹線開業と同時のホテル、商業施設等のオープンに向けて支援を行いました。B街区及び福井駅前南通り地区においては、物価高騰や新型コロナウイルス感染症等の影響による事業計画見直し等の支援を行いました。

県都にぎわい創生協議会については、令和4年10月に県都グランドデザインを策定し、今後は官民連携のプロジェクトの積極的な推進に努めます。

中心市街地の賑わいについては、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止や延期となったことなどから、ハピリンの入込客数等は目標達成には至りませんでした。しかしながら、前年度と比較しても回復傾向にあり、今後も北陸新幹線福井開業に向けて機運を高めるイベントを開催するなど、賑わいの創出を図っていきます。

このほか、高架下トイレのリニューアルや福井城址周辺道路の整備を進め、観光客等の受入準備を行いました。

II. 福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます

福井市都市計画マスタープランに掲げる将来都市像の実現に向けて、越前東郷駅周辺の土地区画整理事業等により、新たに整備された地形地物等と用途地域等の区域界との不整合を解消するため、用途地域等を変更しました。

また、地域の特性を活かしたきめ細やかなまちづくりを推進するため、自治会・関係団体との意見交換を行い、地域の現状や課題の把握、まちづくりの意識醸成を図りました。

都市計画道路については、8月に志比口開発線全線の供用を開始し、環状東線の渋滞緩和、中心市街地へのアクセス向上、通学路の安全確保が図られました。

今後も、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます。

良好な景観づくりでは、ふくい嶺北連携中枢都市圏の広域景観形成のPR動画を作成しました。景観形成支援については、6月から開始した県都まちなか再生ファンドと連携し、5件の支援を行い、まちなかの魅力向上を図ってきました。今後は、魅力ある景観形成のため積極的な制度の周知・活用に努めます。

Ⅲ. 第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築を進めます

北陸新幹線福井開業を控え、7月には、並行在来線準備会社が「株式会社ハピラインふくい」となり、他の鉄道等と連携して住民の生活を支える地域鉄道として本格始動しました。

二次交通の充実と利用促進については、福井鉄道交通圏地域公共交通計画の策定、まちなかの店舗と連携した運賃割引、カーフリーデー等のモビリティマネジメントなど、様々な利用促進策やサービス水準の向上に取り組みました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、公共交通機関の乗車人数は、令和3年度よりも回復しつつあるものの、目標は達成できませんでした。

今後も、都市交通戦略に基づく各種施策を進め、多くの人に利用される公共交通を目指していきます。

ICTの活用については、Ma a Sシステムの協議会を立ち上げ、10月からは電子企画切符の実証実験を行いました。キャッシュレス決済についても、県の支援により、来年度、路線バスへの交通系ICカードの導入に取り組むこととしています。

自転車の利用促進と利便性の向上については、福井県一乗谷朝倉氏遺跡資料館のオープンに合わせたJR一乗谷駅自転車駐車場の整備や、JR福井駅自転車駐車場の自転車ラックの改修に取り組みました。

フィーダー交通は、乗車人数が目標に届かなかったものの、4月の福井市南東地区フルデマンドタクシーの本格運行や、安居地区における地域住民の共助による「あごころバス」の運行など、新たな運行形態や担い手による地域内移動手段の充実を図ることができました。

Ⅳ. 第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策を進めます

高齢者、障がい者、子ども等交通弱者の安全を確保するため、交通安全教室や、交通安全推進団体・関係機関と連携した交通事故防止活動に取り組んできました。特に、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた交通安全フェスタを開催するなど、多くの方が参加するイベントを開催し、交通安全意識の周知・啓発に努めました。

交通事故死者数は、目標を達成しましたが、重傷者数は、40人の目標に対し61人と達成には至りませんでした。近年、交通人身事故の件数が減少傾向にあるものの、高齢者の割合は依然として高く、高齢者が、事故の加害者にも被害者にもならないよう継続的な対策が重要であると考えます。

また、自転車利用時のヘルメット着用（努力義務）について、これまでは児童・幼児が対象でした。しかし、法改正がされ令和5年4月から全利用者が対象となることから、自転車に乗る際のルール・マナーの啓発を行います。

Ⅴ. 福井市DX推進計画（令和4年度～8年度）に基づき、デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策を進めます




ICTの浸透により人々の生活をより良い方向に変化させるDXを推進していくため、「福井市DX推進計画」及びその具体的な個別の事業に係るスケジュールや数値目標を定めた「福井市DX推進計画実施計画」に基づき、行政のDXに取り組みました。



デジタル化により市民サービスの向上を図るため、行政手続オンライン化の推進に取り組むほか、AIチャットボットについて、毎月のQ&A集の追加・修正に加え、頻繁に情報が変化する分野については随時の追加を行うなど、質問にきめ細やかに対応できるように努めました。標準準拠システムの移行については、標準仕様との比較分析、移行計画の作成などを実施し、来年度はこれを受けて移行計画の詳細化を行います。



新技術の活用として、AI議事録作成支援システムの導入、RPA導入業務の拡大を行い、業務の効率化を図りました。




DXの推進には、全庁的な機運の醸成とともにデジタル人材の育成が必要不可欠なことから、職員の役割に応じた研修を実施しました。

I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺での取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます




1	民間主体のまちづくりの推進	 <p>8 働きがいの 経済成長も</p>	 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	達成度	
実行内容					
行動目標	<p>福井駅周辺を魅力と賑わいある市街地へ再整備するため、民間が主体となった再開発事業への支援を行い、商業、文化、医療、居住等の複合的な都市機能の充実を図ります。</p> <p>複数の再開発事業を確実に進めるため、工事スケジュールの調整など事業者間の連携強化を図り、地元の理解と機運醸成に努めます。</p> <p>また、県、市、商工会議所で組織する県都にぎわい創生協議会での議論を踏まえ、更なる民間が主体となるまちづくりを進めます。</p>				
取組内容	<p>○市街地再開発事業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井駅前電車通り北地区A街区：建築工事施工中 ・福井駅前電車通り北地区B街区：解体工事着工（6月）、物価高騰等により事業計画を見直し中 ・南通り地区：組合設立認可（6月）、物価高騰等により事業計画を見直し中 <p>○再開発事業等連絡調整会議開催（8月、3月）</p> <p>○県都にぎわい創生協議会2回（6月、8月）、エリアマネジメント部会2回（4月、8月）、新幹線開業準備部会2回（5月、8月）、県都デザイン推進会議1回（11月）</p>				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
<p>民間主体によるまちづくりへの支援件数：3件 再開発事業等連絡調整会議の開催：2回以上 県都にぎわい創生協議会 グランドデザイン策定：8月</p>			<p>民間主体によるまちづくりへの支援件数：3件 再開発事業等連絡調整会議の開催：2回 県都にぎわい創生協議会 グランドデザイン策定：10月</p>		
成果・課題	<p>福井駅前電車通り北地区A街区再開発事業については、令和6年春のオープンに向けて建築工事を進めています。物価高騰等の影響により事業費が増額しましたが、国の支援制度を活用して事業推進を支援しました。ホテル棟は最上階まで立ち上がり、駐車場棟、住宅棟についても予定どおり工事が進捗しています。</p> <p>福井駅前電車通り北地区B街区再開発事業については、6月に解体工事に着手し、建物上屋、地下階の解体が完了しました。12～1月には埋蔵文化財調査を実施し、出土した遺構の現地見学会を行いました。現在、物価高騰等の影響により事業計画の見直しを行っているところです。</p> <p>福井駅前南通り地区市街地再開発事業については、6月に組合設立認可を受け、再開発組合が設立されました。その後、物価高騰等の影響により事業計画の見直しを行っているところです。</p> <p>再開発事業等連絡調整会議については、各事業の事業方針や進捗状況等の情報共有を図りました。今後は、再開発事業のほか周辺の道路整備など複数の工事が予定されていることから、各事業が円滑に進むよう事業者間の連携を強化していきます。</p> <p>県都にぎわい創生協議会では、各部会での議論を踏まえ、10月に県都グランドデザインを策定しました。</p> <p>今後は、グランドデザインに掲げる将来像実現のため、官民が連携して計画に位置付けるプロジェクトの着実な推進に努めます。</p>				




2	中心市街地の賑わい創出		達成度 
実行内容			
行動目標	賑わいと交流の拠点であるハピリンを中心とした様々なイベントを開催し、周辺施設や関連団体と連携して、中心市街地全体で歩行者の回遊性を高めます。		
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ハピリン6周年記念イベント(4~5月) ○ハピリン(にぎわい交流施設)指定管理者による指定事業 <ul style="list-style-type: none"> ・福井+恐竜+戦国ランド(9月) ・あげフェス(11月) ・幸せもちもち満腹祭(12月) ・すまいるスケートハピリンク(12月~2月)など ○ハピリンと近隣商業施設との連携イベント <ul style="list-style-type: none"> ・ふくいメロンまつり(6月) ・まちなか音楽祭(9月)など ○歩行者・自転車通行量調査(7月、10月) 		
指 標			
計 画		結 果・成 果	
<ul style="list-style-type: none"> ⑥ ハピリン入込客数：187万人(3年度) →270万人(4年度) ハピリン来場者数：28万人(3年度) →48万人(4年度) ⑤ まちなか歩行者・自転車通行量 (中央1丁目)：27,803人(3年度) →36,000人(4年度) ハピリンと近隣商業施設との 連携イベントの開催：4件 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ ハピリン入込客数：225万人 ハピリン来場者数：42万人 ⑤ まちなか歩行者・自転車通行量 (中央1丁目)：29,357人 ハピリンと近隣商業施設との 連携イベントの開催：4件 		
成果・課題	<p>ハピリンでは、開業6周年記念イベントや福井の地域資源をPRする「メロンまつり」「あげフェス」の他、毎年恒例となった「ハピリンク」などの集客イベントを年間を通して実施しました。また、新幹線開業に向け、福井の観光資源である恐竜と一乗谷の歴史をPRするイベント「福井+恐竜+戦国ランド」を新たに開催するなど、まちなかのにぎわい創出を図りました。新型コロナウイルス感染症の影響により中止や延期となったイベントもあったことから、入込客数及び来場者数は目標達成には至りませんでした。回復傾向にあり、今後も新幹線開業に向けて機運を高めるイベントを開催するなど、賑わいの創出を図っていきます。</p> <p>歩行者・自転車通行量については、7月と10月の平日と休日に調査を実施し、平均29,357人と、昨年より増加しましたが、新型コロナウイルス感染症等の影響により、目標達成には至りませんでした。7月は平均21,694人と通行量が前年度とほぼ同数でしたが、10月は平均37,021人となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の通行量近くにまで回復しました。</p> <p>ハピリンと近隣商業施設との連携については、「まちなか音楽祭」でまちなかの4つの広場を会場とし回遊して音楽を楽しむようにしたほか、商店街での買い物レシート提示で「ハピリンク」の割引券を発行するなど、連携イベントを4件開催しました。</p> <p>今後は、北陸新幹線福井開業に向けて、賑わいと交流の拠点であるハピリンを中心に様々なイベントを開催し、近隣施設や商店街等と連携し、中心市街地の更なる賑わい創出と回遊性の向上に努めます。</p>		



3	新たなまちの魅力と回遊性の向上		達成度 
実行内容			
行動目標	<p>福井城址周辺の道路整備を継続して行い、福井城址から養浩館へ快適に歩ける道路空間を形成することにより回遊性を高めます。</p> <p>北陸新幹線福井開業に向けて、来街者が気持ちよく利用していただけるよう高架下トイレの改修を行うことや、多言語化に対応し、多様な方にわかりやすい案内のため公共サインを改修します。</p> <p>また、中核市として、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町の魅力ある自然、歴史、文化などの地域資源のPRや体験イベントを開催します。</p> <p>いつでも誰でも気軽に利用できるように、ICTを活用したシェアサイクルシステムの整備を行います。</p>		
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○福井城址周辺道路整備 <ul style="list-style-type: none"> ・市道 1-361 号線の整備工事を実施（9月着工、3月完成） ○高架下トイレの改修 <ul style="list-style-type: none"> ・高架下トイレ改修及び喫煙所の移設工事を実施（9月着工、2月完成） ○公共サインの改修 <ul style="list-style-type: none"> ・全 82 カ所中 63 カ所で実施（2月着工、3月完成） ○中心拠点の賑わい創出イベント <ul style="list-style-type: none"> ・「ふくい駅周辺謎ときスクエア」（7/21～8/31） ○シェアサイクル「ふくチャリ」の整備（ドコモ・バイクシェア） <ul style="list-style-type: none"> 無人ポート 10 カ所、電動自転車 60 台を配置、ふくい桜まつり臨時ポート設置（R5.3/25～4/9） 		
指 標			
計画		結果・成果	
福井城址周辺道路整備の推進：L = 70m 高架下トイレの改修 公共サインの改修 中心拠点の賑わい創出イベント実施：8月 ICTを活用したシェアサイクルシステムの整備	福井城址周辺道路整備の推進：L = 70m 高架下トイレの改修及び喫煙所の移設 公共サインの改修：63 カ所 中心拠点の賑わい創出イベント実施：8月 ICTを活用したシェアサイクルシステムの整備		
成果・課題	<p>福井城址周辺道路整備については、城址北側の市道 1-361 号線の整備を完了しました。これにより、福井駅から中央公園、順化小学校・公民館を経て養浩館庭園方面に通じる城址西側・北側での整備が完了し、快適に歩いて散策できる環境が整いました。</p> <p>高架下トイレの改修については、明るく清潔で、快適に利用いただける施設となるようリニューアルを行いました。また、トイレ改修工事に併せて、路上に設置していた喫煙所を屋内型に移設しました。これにより、トイレや喫煙所を利用される方の利用環境が向上しました。</p> <p>まちなかの観光地や拠点施設等を案内する公共サインの改修については、63 カ所で多言語化対応や案内表示の修正などの改修を行いました。中心拠点の賑わい創出イベントについては、福井駅周辺に設置した4つの宝箱探しを通じて、連携市町の地域資源をクイズ形式でPRしました。また、宝箱をグリフィス記念館おもてなし館や西武福井店等に設置することで、まちなかの施設への回遊や各種イベントとの相乗効果につながるよう工夫しました。</p> <p>今後も、城址周辺道路整備や公共サイン改修を計画的に進めるとともに、賑わいイベントなどを実施し、まちの魅力と回遊性の向上に努めていきます。</p> <p>シェアサイクル「ふくチャリ」については、全国 150 万人の会員を持つドコモ・バイクシェアを導入し、60 台 10 ポートで運用を開始しました。さらに、イベントに合わせて臨時ポートを設置しました。</p>		

4	北陸新幹線の建設促進			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>令和6年春に北陸新幹線が確実に開業できるよう、国、県との連絡を密にし、連携して取り組みます。</p> <p>福井開業1年前の機会にあわせ、イベント等を通して、機運醸成を図ります。</p> <p>福井市観光交流センターについては、福井駅舎と一体的な施設となるため、関係者と協議しながら計画的に整備を進めるとともに、令和5年10月に着実に供用開始できるよう、施設の指定管理者を選定します。</p> <p>また、敦賀・大阪間については、早期全線開業を実現するため、県及び関係機関と連携し、建設を促進します。</p>				
取組内容	<p>○建設促進大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線関係都市連絡協議会の開催（5月、10月） ・福井市北陸新幹線建設促進協議会の開催（5月） ・福井県北陸新幹線建設促進同盟会の開催（7月） ・北陸新幹線建設促進同盟会の開催（7月、11月） <p>○建設促進の要望活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井市及び福井市北陸新幹線建設促進協議会の中央要望の実施（7月） ・福井市の県要望の実施（8月） ・北陸新幹線関係都市連絡協議会の中央要望の実施（8月、11月、1月） <p>○福井市観光交流センターの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者の選定（9月） ・建築工事・恐竜モニュメント完成（1月） <p>○機運醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線福井駅見学会&レールウォークの実施（11月） ・北陸新幹線開業1年前イベント（西武福井店・福井市観光交流センター）の実施（3月） ・出前講座の実施（15回） 				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
<p>① 北陸新幹線建設促進協議会等の開催数：5回</p> <p>機運醸成のイベント等の回数：3回</p> <p>福井市観光交流センター指定管理者の選定：9月</p> <p>福井駅観光交流センター建築工事完成：1月</p>			<p>① 北陸新幹線建設促進協議会等の開催数：6回</p> <p>機運醸成のイベント等の回数：3回</p> <p>福井駅観光交流センター指定管理者の選定：9月</p> <p>福井駅観光交流センター建築工事完成：1月</p>		
成果・課題	<p>北陸新幹線の整備状況については、国土交通省が開催する工程・事業費管理連絡会等を通して密に情報共有を行い、進捗管理を行っています。</p> <p>11月に福井駅見学会&レールウォークを開催したところ、定員300名に対し2,434名の応募があり、関心の高いイベントとなりました。参加者からも大変好評であり、福井開業に向けて機運醸成が図れました。</p> <p>福井市観光交流センターの整備については、指定管理者を選定し、本年10月1日から供用開始します。また、建物・恐竜モニュメントとも1月に完成したことを受け、地元関係者や報道関係者に内覧会を実施するなど、積極的にPRに努めています。</p> <p>敦賀・大阪間については、昨年12月に国より、令和5年度当初の着工見送りと、工事認可後に行っていた調査等を前倒して取り組むことが示されました。北陸新幹線の効果を最大限に発揮するために1日も早い大阪までの全線開業が実現出来るよう、関係機関と連携して国に働きかけていきます。</p>				

II. 福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます

5	適正な土地利用の推進			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>福井市都市計画マスタープランに掲げる将来都市像の実現に向けて、越前東郷駅周辺の土地区画整理事業等により、新たに整備された地形地物等と用途地域等の区域界との不整合を解消するため、用途地域等を変更します。</p> <p>北陸新幹線福井開業を控える中、県都の玄関口にふさわしいまちづくりを実現するため、都市機能誘導区域において、民間の活動や投資を促進し、広域的な機能を有する施設の誘導が図られるよう、土地利用規制の見直し等を検討します。</p> <p>地域の特性を活かしたきめ細やかなまちづくりを推進し、都市計画制度の理解・活用を図るため、自治会・関係団体等との意見交換を行います。</p>				
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○用途地域等の変更 <ul style="list-style-type: none"> ・県、関係所属との協議（4～12月） ・住民説明会の実施（11～12月） ・都市計画変更案の公告、縦覧（12～1月） ・福井市都市計画審議会での審議（2月） ・都市計画変更（2月） ○福井駅東口周辺の土地利用検討 ○自治会・関係団体等との意見交換会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会 3回（6～9月） ・関係団体 1回（7月） 				
指 標					
計画			結果・成果		
東郷駅東部土地区画整理事業等に伴う 用途地域等の変更 自治会・関係団体等との意見交換会の開催：3回			東郷駅東部土地区画整理事業等に伴う 用途地域等の変更 自治会・関係団体等との意見交換会の開催：4回		
成果・課題	<p>用途地域等の変更については、県との協議や地元説明会を開催し、都市計画法に基づく変更手続きを完了することができました。</p> <p>福井駅東口周辺の土地利用について検討を行ったところであり、引き続き、北陸新幹線福井開業や中部縦貫自動車道の県内区間全通に伴う開発動向に注視し、適正な土地利用の誘導に取り組んでいきます。</p> <p>また、快適な生活環境を維持していくため、自治会や関係団体との意見交換会を4回開催し、地域の現状や課題の把握、まちづくりの意識醸成を図ることができました。</p> <p>引き続き、地域住民が主体となって行う地域の特性を活かしたまちづくりについて、活動の支援と周知を行っていきます。</p>				

6	街路整備の推進			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>まちの骨格となる幹線道路について、計画的に整備を進めます。 志比口開発線は、隣接する環状東線の混雑緩和と福井森田道路からの新たな交通流入に対応するため、今年度供用を開始します。</p>				
取組内容	<p>○志比口開発線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地、移転補償 1件 (7月完了) ・道路築造工事 L=250m (8月完成) ・供用開始 令和4年8月26日 				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
都市計画道路整備率：84.2% (3年度) →85.0% (4年度)			都市計画道路整備率：85.0%		
志比口開発線の供用開始：8月			志比口開発線の供用開始：8月		
成果・課題	<p>志比口開発線において、10月の福井森田道路（新九頭竜橋）供用開始にあわせ、8月に全線の供用を開始することができました。</p> <p>その効果として、近隣に立地する啓蒙小学校、進明中学校の通学路の安全が確保され、環状東線の渋滞緩和（※1）、自動車交通の円滑化、中心市街地へのアクセス向上（※2）も図られました。</p> <p>また、都市計画道路整備率については、志比口開発線などの整備により、整備率は85.0%となり、目標を達成することができました。</p> <p>来年度は、丸山上北野線の市街化区域内の未整備区間の整備に着手します。</p> <p>また、その他の未整備の都市計画道路については、引き続き、社会情勢の変化に応じて課題を整理し、計画的に整備を進めていきます。</p> <p>※1 12時間交通量 978台減少（12,508台(令和3年11月)→11,530台(令和4年9月)） ※2 走行時間 約3分短縮（福井警察署～福井駅）</p>				

7	県都にふさわしい良好な景観形成		達成度	
---	-----------------	---	-----	---

実 行 内 容

行動目標

県都にふさわしい美しい街並みをつくるため、民間が行う良好な景観に配慮した建築物等の更新やまちの魅力向上に資する事業に支援します。

また、福井らしい景観をつくり・育てるために、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携した広域的な景観の形成を進めます。

取組内容

- 良好な景観づくりやまちの魅力発信への支援
 - ・第1次募集 申請なし
 - ・第2次募集 選定委員会（9月）、交付決定1件
 - ・第3次募集 選定委員会（11月）、交付決定2件
- 県都まちなか再生ファンドによる景観形成支援（2件）
- 広域景観形成のPR動画作成
 - ・季節（春）の動画（10月完成、3月公開）
 - ・季節（夏）の動画（ // 、令和5年公開予定）

指 標

計 画	結 果・成 果
景観まちづくり事業による支援：5件 広域景観形成のPR動画作成	景観まちづくり事業による支援：5件 広域景観形成のPR動画作成：10月

成果・課題



良好な景観づくりやまちの魅力発信への支援については、2次募集でまちの魅力発信を行うソフト事業1件、3次募集でハード事業2件の申請がありました。今年度からより使いやすい補助メニューとなるよう見直しを図ったことで、申請数は昨年度より増加しました。また、6月からは県都まちなか再生ファンドの運用を開始し、2件の景観整備への支援を行いました。





今後は、さらに活用しやすい制度となるよう、募集開始や選定委員会の開催時期を見直すとともに、一層の制度周知を図り支援件数の増加に努めます。



広域景観形成のPR動画作成については、連携中枢都市圏の関係市町と協議しながら、足羽川桜並木や三国花火を撮影した季節映像「春」、「夏」を制作しました。映像は動画サイトで公開したほか、連携市町でのイベント等で放映するなど、良好な景観のPRに努めました。




今後は、北陸新幹線沿線の新たな景観動画を作成するほか、これまでに作成した動画を景観形成のほか観光誘客などにも幅広く活用していきます。




Ⅲ. 第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築を進めます

8	並行在来線開業準備		達成度	
実行内容				
行動目標	並行在来線準備会社への第2次出資を行うとともに、新駅設置候補地の絞り込みや既存駅へのアクセス向上、モデルチェンジを進めるための整備方針を検討するなど、前年度策定した「経営計画」に基づき、開業準備を本格化させます。			
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○株式会社ハピラインふくい（愛称：ハピライン）への第2次出資 本格会社移行に伴い109,800千円を出資（7月） ○福井駅－森田駅間の新駅設置候補地の絞り込み <ul style="list-style-type: none"> ・検討会議の開催（6月、8月、10月、11月） ・市民アンケート調査の実施（7月） ・検討会議で新駅設置候補地を絞り込み、市へ報告（12月） ・検討会議からの報告を受け、ハピラインへ提言（1月） ○利用促進策の方針検討など <ul style="list-style-type: none"> イ）既存駅の整備方針の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・越前花堂駅周辺整備に関するJR、ハピラインとの協議（7月） ・越前花堂駅周辺整備に対する、都市再生整備計画事業の活用に関して国と協議（8月） ・越前花堂駅周辺整備の方向性に関して、地元との意見交換（8月） ロ）既存駅の利用促進策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・森田駅利用促進協議会の設置および開催（8月、3月） ・森田駅ワークショップへの参加（6月、7月、8月） ・森田駅活用社会実験イベント企画への参加（11月） ・先進地「大聖寺駅」の視察（2月） ハ）ハピライン開業に向けたPR及び機運醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・開業PRポスターの制作・掲示（8月～）、開業PR懸垂幕の制作・掲示（8月～） ・広報ふくいの特集記事及びFBC放送「それいけ！福井市調査隊」で、ハピラインの取組を紹介（3月） 			
指 標				
計 画		結 果・成 果		
並行在来線準備会社の本格会社移行：7月 新駅（森田駅・福井駅間）候補地の選定 利用促進策の方針検討		並行在来線準備会社の本格会社移行：7月 新駅（森田駅・福井駅間）候補地の選定 利用促進策の方針検討		
成果・課題	<p>福井県並行在来線準備株式会社から本格会社「株式会社ハピラインふくい（愛称：ハピライン）」への移行に伴い、第2次出資金の拠出を行いました。</p> <p>利用促進策のうち、新駅設置候補地については、専門家等で構成する検討会議の委員の意見や市民アンケート調査結果等を基に絞り込み、ハピラインに対し提言しました。その他、既存駅への整備方針については、ハピラインや沿線の地域と連携し、ワークショップや駅の空きスペースを活用したイベント等を実施しながら検討してきました。</p> <p>また、市内の小中学生の図画作品を活用したポスターや懸垂幕を制作し、既存駅や学校の工事現場等へ掲示するなどの機運醸成にも取り組んできました。</p> <p>さらに、「広報ふくい」や情報番組等において、ハピラインの役割や取組などを紹介し、市民への周知に積極的に取り組んできました。</p> <p>令和6年春の開業に向け、引き続き、ハピラインや地域と連携し、利用促進策に取り組むとともに、イベントなどを実施し、市民への機運醸成に努めます。</p>			




9	二次交通の充実と利用促進		達成度 
実行内容			
行動目標	<p>公共交通相互のモビリティネットワークを充実し、「行きたいところにスムーズに行ける」交通環境を構築するため、地域鉄道及びバス路線が安定運行を継続するための支援を行うとともに、利便性向上に取り組めます。</p> <p>また、公共交通について「知ってもらい、乗ってもらう」ための情報発信や、中心市街地の店舗と連携した運賃割引などに取り組み、公共交通の利用促進を図ります。</p>		
取組内容	<p>○利便性向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井鉄道交通圏地域公共交通計画の策定（3月） ・地域公共交通計画の策定作業 <ul style="list-style-type: none"> 福井市地域生活交通活性化会議にて協議（6月、8月、2月） すまいるバスの利用者及び沿線住民にアンケート調査実施（10月～11月） ・危険なバス停の安全性確保に向けた対策を完了（3月） <p>○利用促進に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR越美北線利用促進事業（4月～3月） <ul style="list-style-type: none"> 沿線まち歩きイベントの実施、沿線マップ作成等（4月～3月） JR越美北線を団体で利用された方への運賃助成（4月～3月） JR越美北線利用促進リーフレットの全戸配布（9月） JR越美北線で一乗谷朝倉氏遺跡博物館へ来館した方へのクーポン券配布（10月～12月） ・まちなか公共交通お買い物支援事業の実施（4月～3月） ・カーフリーデーふくいで田原町クイズラリーを実施（9月） ・すまいるバス北ルートで人気声優榎木淳弥氏による車内放送を開始（10月から1年間） ・おでかけ応援事業の実施（えちぜん鉄道、福井鉄道のフリー切符割引分を助成）（10月～2月） 		
指 標			
計 画		結 果・成 果	
 2 公共交通機関の乗車人数： 738万人（3年度）→ 830万人（4年度）	 2 公共交通機関の乗車人数： 819万人（見込み）		
成果・課題	<p>第2次福井市都市交通戦略が掲げる「行きたいところにスムーズに行ける」交通利用環境を構築するため、福井鉄道交通圏地域公共交通計画の策定や、すまいるバスのアンケート調査、危険なバス停の安全性確保など、利便性向上に向けた取組を着実に進めました。</p> <p>併せて、JR越美北線の維持確保に向けた利用促進事業や、まちなかの店舗と連携した公共交通機関の運賃割引、カーフリーデー等のモビリティマネジメント、すまいるバスで人気声優による車内放送を開始するなど、様々な利用促進策やサービス水準の向上にも取り組みました。</p> <p>その結果、公共交通機関の乗車人数については、通勤通学等の日常利用者がコロナ前に近い水準まで回復するなど、令和3年度と比較して大きく回復しました。しかしながら、観光等の非日常利用者は未だ回復途中であるため、全体としては令和元年比1割減と、目標に届きませんでした。</p> <p>来年度は、「地域公共交通計画」を策定し、すまいるバスのルート等の市中心部バス路線網の見直しを図るほか、新幹線開業後を見据えた地域鉄道のダイヤ見直しやハピラインふくいと連携した企画乗車券の造成、すまいるバスのEV化等に取り組めます。これらにより、二次交通の更なる充実と、非日常利用を含めた公共交通の利用促進を図ります。</p>		

10	ICTを活用した交通利便性の向上 DX		達成度	
実行内容				
行動目標	<p>市民や観光客が公共交通を選択しやすくなる環境づくりのため、MaaSの導入やキャッシュレス決済の普及促進など、ICTを活用した利便性の向上に取り組みます。</p> <p>MaaSについては、令和5年度末の本格導入に向けて、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町、交通事業者、民間事業者等と「ふくいMaaS協議会」を立ち上げ、デジタルチケットの導入などの実証実験に取り組みます。</p>			
取組内容	<p>○ふくいMaaS導入に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会開催（5月設立総会、8月、3月） ・ふくいMaaSポータルサイトの開設（9月～） ・電子企画切符販売の実証実験（10月～2月） 			
指 標				
計 画			結果・成果	
ふくいMaaS協議会の設立：5月 ③ 公共交通のキャッシュレス決済比率： 18.3%（3年度）→ 20.0%（4年度）			ふくいMaaS協議会の設立：5月 ③ 公共交通のキャッシュレス決済比率：22.8%	
成果・課題	<p>北陸新幹線福井開業を見据えた観光客の利便性確保と、住民サービスの向上を図るため、嶺北11市町、交通事業者、大学、民間事業者等が参加する「ふくいMaaS協議会」を5月に設立しました。</p> <p>ふくいMaaS協議会では、11市町それぞれの特色を生かした企画切符を検討する地区部会や、長期ビジョンでの運用を検討するビジネスデザイン部会、より効果的な周知方法について検討する広報部会などの専門部会を開催し、今後のふくいMaaSアプリ導入に向けた方向性についての協議を進めました。</p> <p>10月からは電子企画切符の実証実験に取り組み、既存の企画切符8種類に加え、新規企画切符8種類を電子化しました。2月末の終了までに444枚を販売し、購入者の約7割が県外客でした。</p> <p>来年度は、実証実験の結果を踏まえ、より多くの方にとって利用しやすいMaaSとなるよう、アプリ開発に取り組みます。</p> <p>キャッシュレス決済の普及促進については、県の支援により、交通系ICカードを路線バスは新幹線開業前までに、えちぜん鉄道・福井鉄道は令和6年度末までに導入します。</p>			



11	自転車の利用促進と利便性の向上 ゼロカーボン			達成度	
実行内容					
行動目標	新幹線開業に向け、通勤・通学や観光での移動手段として自転車の利用を促すため、ＪＲ福井駅高架下及びＪＲ越美北線一乗谷駅の自転車駐車場の改修等を行い、利用環境の改善を図ります。				
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道駅自転車駐車場の改修等 <ul style="list-style-type: none"> ・ＪＲ一乗谷駅自転車駐車場（８月） ・ＪＲ福井駅自転車駐車場 自転車ラックの一部分更新（１，１２０台分）（２月） ○自転車利用の啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・カーフリーデーイベントでのパネル出展（９月） ・環境フェアでのパネル展示（１１月） 				
指 標					
計 画			結 果 ・ 成 果		
サイクルアンドライドの推進： 鉄道駅自転車駐車場の改修等 ２カ所			サイクルアンドライドの推進： 鉄道駅自転車駐車場の改修等 ２カ所		
成果・課題	<p> ＪＲ一乗谷駅自転車駐車場は、福井県一乗谷朝倉氏遺跡資料館のオープンや一乗谷駅の改修に合わせ、景観に配慮した改修を行い、駅で乗降する市民や来訪者が利用しやすい環境を整えました。 </p> <p> 昨年から進めていたＪＲ福井駅自転車駐車場の改修については、自転車ラックの更新が完了し、高齢者や女性の方でも容易に自転車の駐車が可能となる利用環境に改善しました。（１，１２０台分） </p> <p> 今後は、福井駅の南側にも自転車駐車場を整備し、来訪しやすい駐輪環境を整えていきます。 </p> <p> 自転車利用を促すため、カーフリーデーや環境フェアなどのイベントに参加し、普及啓発に努めました。 </p> <p> 来年度は、環境だけでなく健康や経済性など、自転車の持つ多様なメリットを市民にPRし、利用推進を図ります。 </p>				

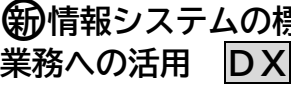


12	新 地域拠点の機能充実と地域内移動手段の確保	 3 すべての人に健康と福祉を	 11 住み続けられるまちづくりを	達成度	
実行内容					
行動目標	<p>地域住民の身近な生活空間の中心である地域拠点において、公共交通機関の待合環境の向上や案内サインの充実など、機能充実を図ります。</p> <p>また、地域バスやコミュニティバスなど、地域拠点に結節するフィーダー交通について、フルデマンドタクシーの本格運行や福祉車両の活用、運行ルートの調整など、地域特性に応じた移動手段の確保に努めます。</p>				
取組内容	<p>○待合環境の向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越美北線美山駅への案内サイン整備（10月） ・済生会病院バス待合スペースのデジタルサイネージ整備（11月） ・えちぜん鉄道越前島橋駅のトイレ整備（3月） <p>○移動手段の確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井市南東地区フルデマンドタクシーの本格運行開始（4月～） ・福祉車両を活用したお買い物バス「あごころバス」（安居地区）の本格運行開始（4月～） ・森田地域コミュニティバス本格運行開始（10月） ・フィーダー交通の運行ルート調整（4月～） <ul style="list-style-type: none"> 海岸地域バスのルート変更 岡保、森田地域コミュニティバスのルート変更 				
指 標					
計 画			結果・成果		
④ フィーダー交通の乗車人数： 12.5万人（3年度）→15.0万人（4年度）			④ フィーダー交通の乗車人数： 13.0万人（見込み）		
成果・課題	<p>第2次福井市都市交通戦略の施策パッケージに基づき、拠点への機能の集積とモビリティの改善による持続可能な地域を形成するため、待合環境の整備やフィーダー交通の見直しを進めました。</p> <p>地域拠点や乗継拠点の機能充実については、美山駅への案内サインや済生会病院バス待合スペースのデジタルサイネージ、えちぜん鉄道越前島橋駅のトイレなどの整備を行いました。</p> <p>移動手段の確保に向けた取組としては、地域バスや地域コミュニティバスが、より生活に密着した運行となるよう、スーパーや病院などの地域ニーズに合わせたルートの見直しを行った結果、特に海岸地域バスでは、利用者が昨年比で約1.5倍に増加しました。</p> <p>また、4月から本格運行を始めた福井市南東地区フルデマンドタクシーや、地域住民の共助によるあごころバスなど、既存の路線バスの維持が困難な地域において新たに導入した交通についても、徐々に認知されてきており、少しずつ利用者は増加しています。</p> <p>利便性向上への取組を着実に進めていますが、フィーダー交通全体の乗車人数については、利用者の多くが高齢者であり、新型コロナの影響を大きく受けたことから、未だに回復していません。</p> <p>今後も地域のニーズに合わせて、フィーダー交通のルート見直しや待合環境の向上、効果的な周知活動等、引き続き利便性向上に取り組みます。また、フルデマンドタクシーの運行や福祉車両の活用など、地域特性に応じた移動手段の確保を、地域と一緒に進めていきます。</p>				



IV. 第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策を進めます

13	高齢者と子どもの事故防止	 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	達成度	
実行内容					
行動目標	<p>交通事故による「死者数・重傷者数」を減らし、交通事故の少ない安全で安心なまちをつくります。高齢者や子どもを対象に、楽しくわかりやすい交通安全教育を行います。</p> <p>特に近年は、高齢者の交通事故が多いことから、外出時の反射材着用や改正道路交通法に伴う安全運転サポートカー限定の免許制度等の周知・啓発に努めます。</p> <p>また、自転車の事故を防止するため、自転車通学の中学生を対象に正しい交通ルールの周知とマナーの啓発を行います。</p>				
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全推進団体等と連携した交通安全普及啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・四季の交通安全市民運動（春 4 月、夏 7 月、秋 9 月、年末 12 月） ○交通指導員による街頭指導活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・主要交差点における毎週金曜日の定例街頭指導活動、地区行事等における街頭指導活動（交通指導員 140 人、出動回数延べ 5,761 回） ○高齢者や幼児・児童等を対象とした交通安全教室の実施（随時） <ul style="list-style-type: none"> （交通安全教室 開催 181 回、参加 5,293 人） ○交通安全イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> （高齢者交通安全大会（8 月）、交通安全フェスタ（10 月）） ○交通安全反射材PRグループ「ワン☆スター」による反射材着用事業 <ul style="list-style-type: none"> （高齢者対象イベントなど出演 5 回、CM放映、啓発DVD作成） ○中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動の実施（社中学校・大東中学校（6 月）） 				
指 標					
計画			結果・成果		
<p>③9 交通事故死者数：12 人（3 年） → 7 人以下（4 年）</p> <p>③40 交通事故重傷者数：59 人（3 年） →40 人以下（4 年）</p> <p>中学生を対象とした 自転車ルール・マナーの啓発活動：2 校</p>		<p>③9 交通事故死者数（年次）： 1 人</p> <p>③40 交通事故重傷者数（年次）： 61 人</p> <p>中学生を対象とした 自転車ルール・マナーの啓発活動： 2 校</p>		成果・課題	<p>年間を通し、交通安全推進団体等と連携した交通安全啓発活動や各地区の交通指導員 140 人による街頭指導活動、交通安全教室などに取り組みました。</p> <p>また、小学生による反射材をPRするグループ「ワン☆スター」を結成し、高齢者等を対象としたイベントへ参加し、反射材の重要性や着用に向けた広報活動を行いました。</p> <p>交通事故死者数については、これまで年間7人が最小でしたが4年中は1人と、過去最小を更新しました。また、交通死亡事故ゼロの期間が10カ月達成したことにより警察本部長より2回賛辞を受けました。</p> <p>一方、重傷者数は、61人で目標を達成できませんでした。重傷者数61人中、高齢者が27人と約半数近く占めており、歩行中や自転車乗車中の事故が多く見られます。</p> <p>来年度は、外出時の反射材着用に加え、4月1日から自転車利用者全員のヘルメット着用が努力義務となることから、自転車に乗る際のルール・マナー等の啓発に努め、交通事故のない安全で安心なまちを目指します。</p>

V. 福井市DX推進計画（令和4年度～8年度）に基づき、デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策を進めます

15	デジタル化による市民サービスの向上 DX		達成度	
実行内容				
行動目標	AIチャットボットの運用や、行政手続のオンライン化を推進し、市民サービスの向上を図るとともに業務の効率化に取り組みます。			
取組内容	○AIチャットボット <ul style="list-style-type: none"> ・AIチャットボット担当所属会議の実施（毎月） ・AIチャットボットのQ & A集の修正・追加の実施（毎月・随時） ○オンライン化申請手続数 6件追加（※先行事業対象） <ul style="list-style-type: none"> ・感染症調査報告 ・消防法関連の申請（19手続） ・児童扶養手当の現況届の事前送信 ※ ・罹災証明書の発行申請 ※ ・転出届 ・転入予約 			
指 標				
計画		結果・成果		
AIチャットボット年間利用件数 : 144,576件（3年度）→210,000件（4年度） オンライン化申請手続数 : 38手続（3年度）→58手続（4年度）		AIチャットボット年間利用件数：229,428件 オンライン化申請手続数：63手続		
成果・課題	自治体DXを推進するため、AIチャットボットの運用や、行政手続のオンライン化に取り組み、計画どおりの成果を上げることができました。 AIチャットボットについては、毎月行っているQ & A集の修正・追加に加え、頻繁に情報が変化する「新型コロナウイルスワクチン接種」、「マイナポイント」については随時Q & A集の修正・追加を行い、よくある質問にきめ細やかに対応したことにより、年間利用件数の増加が図られました。 申請手続については、国が「自治体DX推進計画」で令和4年度までにオンライン化すべきとした27手続のうち2手続をオンライン化したことで、27手続全てのオンライン化が完了しました。また、それ以外の手続についても23手続をオンライン化しました。 あわせて、今年度は行政手続オンライン化に向け、全庁的な調査を実施しました。来年度は調査結果を精査してオンライン化の基準を策定するとともに、優先順位を見える化し、できるだけ多くの手続のオンライン化に取り組みます。 また、電話予約に加え窓口予約システムを導入し、マイナンバーカードの申請・受取日時をオンラインで予約できるようにすることで窓口業務を効率化し、待ち時間の短縮や混雑回避を図るなど、「待たない窓口」を推進しました。			

16	 情報システムの標準化・共通化や新技術の業務への活用		達成度	
実行内容				
行動目標	<p>令和7年度末までに20の基幹系業務システムを国の基準に適合した標準準拠システムに円滑に移行するため、今年度は、標準仕様との比較分析や移行計画の作成などに取り組みます。</p> <p>また、AI議事録作成支援システムのトライアルを実施するほか、RPAの導入業務を拡大し、業務の効率化に取り組みます。</p>			
取組内容	<p>(1) 標準準拠システムへの移行に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準仕様と現行システムの比較分析 ・移行計画の作成 ・ベンダに対する情報提供依頼（RFI）資料の作成 ・RFIの実施 <p>(2) AI議事録作成支援システムの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアル実施（7月～8月） ・導入（10月） <p>(3) RPA導入業務の拡大</p> <p>令和4年度に新たに導入した業務（削減時間：784時間47分）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市・県民税課税台帳扶養情報修正業務（103時間10分） ② 国民健康保険資格喪失入力業務（3時間52分） ③ 農地転用情報入力業務（7時間20分） ④ 固定資産台帳システム減失入力業務（23時間10分） ⑤ 支出負担行為兼支出命令入力業務（217時間30分） ⑥ 市・県民税特別徴収異動届入力業務（256時間40分） ⑦ 給与支払報告書電子総括表データ紐づけ処理（106時間25分） ⑧ 償却資産申告書入力業務（66時間40分） 			
指 標				
計 画		結 果・成 果		
<p>標準準拠システムへの移行に関する進捗率 ：11.7%（3年度）→29.4%（4年度）</p> <p>RPAの導入による業務削減時間 ：1,318時間（3年度）→2,100時間（4年度）</p>		<p>標準準拠システムへの移行に関する進捗率：35.3%</p> <p>RPAの導入による業務削減時間：2,103時間</p>		
成果・課題	<p>標準準拠システムへの移行については、国の「自治体情報システムの標準化・共通化に係る手順書」に従い、計画的に作業をすすめ、令和7年度までに取り組む移行作業17項目のうち6項目まで完了しました。今年度に作成した移行計画をもとに、引き続き、着実に移行作業を進めていきます。</p> <p>AI議事録については、7月から8月の間にトライアルを実施して仕様の検討を行い、10月に導入しました。導入後45の所属が利用し、議事録作成に係る業務時間を497時間削減できました。来年度も引き続き、AI議事録の導入効果を周知し、利用拡大を図っていきます。</p> <p>RPAについては、新たに8業務に導入し、全23業務の削減時間は年間換算で2,103時間となり、導入前にかかっていた時間の52.7%が削減できました。来年度も、引き続き、RPAの導入効果を周知するとともにシナリオ作成支援や研修等を実施し、導入業務を増やしていきます。</p>			

17	DX推進のためのデジタル人材を育成する 研修の実施 DX		達成度	
----	---	---	------------	---

実 行 内 容

行動目標

DXを推進するため、全庁的な機運の醸成とともにデジタル人材の育成に向けて、職員の役割に応じた研修の実施に取り組みます。

取組内容

対象者	研修名
全職員	J-L I Sによる情報セキュリティ研修（eラーニング）
所属長	情報セキュリティ研修
課長補佐	E B P M ・ データ活用理解促進研修
DX推進リーダー	DX推進リーダー育成研修 DX推進リーダー育成研修（eラーニング）
DX推進員	DX推進研修会
実務担当職員	総合行政情報システム担当者研修 ふくeねっと（電子申請システム）操作研修 R P Aシナリオ作成研修 J-L I Sによるマイナンバー研修（eラーニング） A c c e s s研修（初級者向け） A c c e s s研修（個別研修） 統計オンライン講座（4回） 総務省による情報連携に向けた研修（eラーニング） 汎用型G I S研修
新採用職員	職員用パソコン利用者説明（2回） エクセル活用研修

指 標

計画	結果・成果
デジタル人材育成のための研修回数 ：14回（3年度）→21回（4年度）	デジタル人材育成のための研修回数：21回

成果・課題

集合研修に加え、eラーニングや動画配信など幅広い方法で研修を実施したことにより、目標を達成することができました。

DXの機運醸成を目的に、管理職のほか今年度設置したDX推進リーダーやDX推進員を対象とした研修を実施しました。

デジタル人材育成の面では、課長補佐を対象としたE B P Mの研修を行ったほか、A c c e s sや汎用型G I Sの研修では、従来型研修に加え、受講職員が持つ課題検討型研修や個別相談会といった職員それぞれの悩みに柔軟に対応する研修を実施しました。

来年度も引き続き、役割に応じた研修の実施に取り組み、デジタル人材の育成を図っていきます。